

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法概論		必修	2	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-ozawa	水曜 9:00~10:40		
授業の目的・概要	作業療法を学んで行く上での基本的な枠組みを理解し、これからの学習に向けて展望を持つことができるようになることを目的とする。作業療法の基本的な枠組みについて教科書を中心に講義を進め、11回目からは各分野に精通した作業療法士が担当し、さまざまな作業療法があることを知り、理解を深める。この講義はメール等による課題提示、同時双方向型授業等の遠隔授業で行っていく。				
学習上の助言	作業療法の奥深さに興味を持ち、今後学んでいく他の講義が作業療法の学習につながるようになってほしい。				
教科書	標準作業療法学 専門分野「作業療法学概論」第3版：二木淑子・能登真一 編，医学書院 2016				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	作業療法を平易な言葉で説明できる。			OT(2)	
②	作業療法にとっての「作業」の意味を説明できる。			OT(2)	
③	作業療法の基本的な考え方と過程を説明できる。			OT(2)	
④	作業療法の歴史的経過を説明できる。			OT(2)	
⑤	今後の学習の見通しをもつ。			OT(1) (2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	作業とはー作業療法にとっての「作業の意味」について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 3-14p を読み、レポートにまとめる。		3
2	作業療法の原理と歴史について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 15-39p を読み、レポートにまとめる。		3
3	作業療法の領域について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 40-46p と配布スライドにそって、作業療法が行われている施設を調べる。		4
4	作業療法の理論について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 46-62p と配布スライドにそって、作業療法で使われるさまざまな理論を調べる。		4
5	作業療法の教育体系について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 79-90p と配布スライドで学習し、確認テストを行う。		4
6	医療倫理と作業療法士に求められる資質と適正について学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 91-99p と配布スライドで学習し、確認テストを行う。		4
7	多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ。 フィードバック：課題返却で実施 意見交換の機会：課題提出後に質問や解答をまとめ配布。常時メール等のやり取りを行う。	印刷教材等での授業	教科書 100-110p と配布スライドで学習し、確認テストを行う。		4
8	E B M と作業療法について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	事前に教科書 111-128p で予習し、授業後半で確認テストを行い、フィードバックをする。		2
9	作業療法の実践過程 (評価・問題点の抽出) について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	事前に教科書 135-142p で予習し、講義時間内にワークを行う。		2
10	作業療法の実践過程 (治療・指導の立案) について学ぶ。 意見交換の機会：授業時間内に実施	同時双方向型授業	事前に教科書 143-156p で予習し、講義時間内にワークを行う。		2
11	身体障害分野における作業療法過程について学ぶ。 [担当：小沢]	同時双方向型授業	事前に教科書 157-173p で予習し、講義で学んだことを照らし合わせレポートにまとめる。		2

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

12	精神機能分野における作業療法過程について学ぶ。[担当：池谷]	同時双方向型 授業	事前に教科書 174-189p で予習し、講義で学んだことを照らし合わせレポートにまとめる。	2
13	発達過程分野における作業療法過程について学ぶ。[担当：小沢]	同時双方向型 授業	事前に教科書 190-204p で予習し、講義で学んだことを照らし合わせレポートにまとめる。	2
14	高齢期分野（通所リハビリテーション）における作業療法過程について学ぶ。[担当：中西]	同時双方向型 授業	事前に教科書 205-211p で予習し、講義で学んだことを照らし合わせレポートにまとめる。	2
15	高齢期分野（訪問リハビリテーション）における作業療法過程について学ぶ。[担当：浅野]	同時双方向型 授業	事前に教科書 211-219p で予習し、講義で学んだことを照らし合わせレポートにまとめる。	2
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	50	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	10	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	10	20	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	学期末の定期試験(筆記試験)を実施して評価する。 問題(回答)形式は、記述・穴埋め・選択式である。 点数を総合評価の50%に換算する。	試験は各自に返却し、解説する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	講義後半(11~15回)の各分野における作業療法の事例と教科書の事例を照らし合わせ、その分野の特徴をレポートにまとめる。 評価基準:各回のレポートは、形式(2点)、内容(6点)、質問/意見(2点)として評価する。 5回のレポートを合算した点数を総合評価の50%に換算する。	レポートは返却しコメントを添える。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		

備 考

**担当教員：**◎小沢 健一、中西 康祐、浅野 克俊、池谷 政直

**教員の実務経験：** 作業療法士として 10 年以上の臨床経験。

**実践的授業の内容：** 臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。

**印刷教材等での授業：** メールにて配信を行い、課題はメールにて返信を行います。

**双方向型授業：** Microsoft Teams を使用して行います。

授業時には課題ダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限がある場合には通信量に十分注意してください。

今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢により再度シラバスの変更がありうる可能性があります。